

V 事業報告

令和2年初頭から世界的に感染拡大した新型コロナウイルス（COVID-19）は、日本でも感染が広がり、令和2年度には2度に渡り緊急事態宣言が発令され、兵庫県も4月7日～5月21日及び1月13日～2月28日の間、その対象地域となり、外出やイベントの自粛や施設の使用制限等が要請されるなど、地域の社会活動全体が大きな制約を受けた。

こうした中、HIAも勤務体制の変更や施設利用の一時閉鎖を行うなど、様々な影響を受けた。また、一部の事業も延期や中止等を余儀なくされたが、一方で、コロナ禍の厳しい状況においても、オンラインを活用して、各種会議・セミナー、交流イベントといった様々な事業を実施した。

新型コロナウイルスによる主な影響

【勤務・人事】

- ・テレワークを導入し、出勤者を削減
（7割削減：4月13日～5月24日、3割削減：5月25日～6月19日、
6割削減：1月15日～3月31日）
- ・海外事務所長の赴任を延期
（パリ事務所長：7月22日勤務開始、ワシントン州事務所長：9月18日勤務開始）

【施設利用】

- ・国際情報センター（図書室）、展示スペース、交流サロンの一時閉鎖
（4月1日～5月31日）
- ・外国人県民インフォメーションセンターの面談による相談の休止（電話による相談は継続）
（4月13日～5月29日）
- ・海外事務所の現地の規制に対応した一時閉鎖等

【中止・延期となった主な事業】

- ・オックスブリッジ英語サマーキャンプ、セヌ・エ・マルヌ県との人物交流、海外研修員受入等の中止・延期
- ・民間国際交流助成対象事業、居場所づくり助成対象事業等の一部中止
- ・県民交流団派遣の延期 など

【オンラインを活用して実施した主な事業】

- ・オンライン会議、オンラインセミナー（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業総合調整会議、外国人県民対象日本語講座、地域日本語教育シンポジウム、多文化共生を考える研修会等）
- ・オンライン交流イベント（学校交流、食文化交流教室、国際協力セミナー等） など

1 多文化共生社会の実現

外国人児童生徒の学習にかかる課題を解決するとともに、外国人県民が安全で安心して暮らせる社会づくりを進める事業を実施。

(1) 日本語・母語教育の推進

ア 日本語・母語等の教育支援に係る基盤整備

(ア) 地域日本語教育の総合的な体制づくりの推進

(R2年度決算額 28,818 千円) (R元年度決算額 25,628 千円)

令和元年度から始まった文化庁事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、全県レベル・地域レベルで日本語教育支援の体制づくりのための事業・人材育成事業等を行った。

a 全県の日本語教育体制づくり

(a) 総合調整会議の開催

県・市町、教育機関(大学・日本語学校)、外国人コミュニティ、経済団体等関係機関が集まり、全県レベルにおける日本語教育の体制づくりについて協議した。

※オンライン (Zoom) で実施

- ・時 期 第1回 6月5日(金)、第2回 2月5日(金)
- ・議 題 地域日本語教育の総合的な体制づくりに係る事業計画 等

(b) 総括コーディネーターの配置

文化庁事業を推進するため総括コーディネーター2人を配置(うち1人は日本語教育指導員が兼務)し、総合調整会議を開催するほか、全県的な体制づくりのための事業の実施、モデル事業実施地域の体制づくりを支援。



総合調整会議

b 地域の日本語教育体制づくり(市町協会等への委託)

(a) モデル事業の実施

地域の市町国際交流協会等に原則2年間のモデル事業を委託。

※令和元年度からの北播磨・丹波地域に加え、令和2年度より西播磨・但馬地域で実施(委託事業については後述)

(b) 地域調整会議の開催

市町、教育機関、技能実習生等受入企業、商工会議所・商工会等地域における関係機関が集まり、地域における日本語教育の体制づくりに向けて情報・意見交換等を行った。

(c) 地域コーディネーターの配置

モデル事業実施地域(北播磨、丹波、西播磨、但馬)に地域コーディネーターを各1人配置し、地域調整会議の開催、地域日本語教室等モデル事業を実施。



地域調整会議(但馬)

c 日本語教育指導員等の配置

外国人県民が安心して暮らしていくためには、日本語の習得が不可欠であることから、日本語教育専門職員を配置し、日本語教育の先進手法を実践し、ノウハウを蓄積するため、HIAにおける日本語教室を開催するとともに、人材育成・支援法研修会等を通じて地域日本語教室を支援。

- ・日本語教育指導員、日本語教育推進員 各1人

d 外国人県民対象日本語講座開催事業

県内の在住外国人の生活場面での対処能力を高めることが重要であることから、効果的な手法を実践・検証し、地域の日本語教室への知見の普及を図るため、日本語講座を開催。

また、県内の在住外国人への日本語教育の推進に向け、日本語教育の活動拠点及び日本語教育教材の収集・管理の場として、日本語教育推進室を管理・運営。

(a) 外国人県民対象日本語講座

外国人県民の日本語能力向上のため、夜間に学べる文型積み上げ型の日本語講座を開設・運営。

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため Zoom を用いたオンライン授業で実施。第1期は1クラスのみで試行。第2期は5クラスについて定員を通常の3分の2以下にし、授業補助者を配置し実施した。

- ・回数等：初級 年22回、延べ41時間
- ・時期：第1期 6月7日（日）～7月10日（金）

第2期 10月19日（月）～12月12日（土）

- ・クラス：5クラス（初級5クラス）
- ・定員：54人
（1期1クラス10人、2期A・Bクラス7人、C～Eクラス10人）
- ・受講者：48人
- ・受講料：第1期無料、第2期1,000円

(b) 「すぐに役立つ日本語講座」（夏期集中日本語講座）

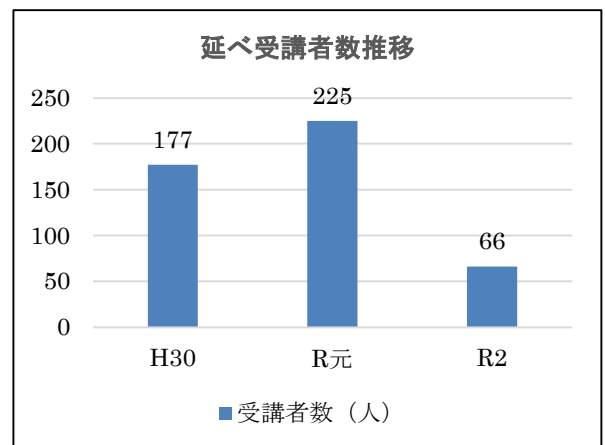
日常生活で役立つ日本語を効率的に学習したいというニーズに対応して、生活場面と密着したコミュニケーション能力の習得に資する講座を開設。

※新型コロナウイルス感染予防対策を十分に講じ、各クラス定員を通常の3分の2にして実施した。

- ・時間数：18日間、延べ54時間
- ・時期：8月19日（水）～9月11日（金）
- ・クラス：2クラス（レベル別）
- ・定員：20人（各クラス10人）
- ・受講者：18人
- ・受講料：1期4,000円



外国人県民対象日本語講座



e 日本語教師による地域日本語教室等の実施

モデル事業を行う4地域において、ボランティアでは対応が難しいとされる、日本語がほとんどできない外国人に対する日本語教育について、専門家である日本語教師が担当する講座を新たに開設し、この講座にボランティア講師が参加することにより、入門期の日本語教育の技能をボランティアが習得する機会とした。

(a) 初期日本語教室

- ・対象：地域在住外国人県民（丹波・西播磨・但馬）
- ・内容：新しく地域に転入してきたり、これまで日本語学習の機会がなかった外国人への日本語学習支援の専門性を持つ日本語教師が担当し、入門期の教室を開設

- (b) 地域ニーズに対応した日本語教室（北播磨・西播磨・但馬）
 これまで地域で対応できなかったニーズに応える教室を開講
 ・内 容：①既存教室に通えない地域に新設した教室（北播磨）
 ②商工会と連携した技能実習生対象講座（西播磨）
 ③複数地域の学習者がオンラインを活用し共に学ぶ講座（但馬）



初期日本語教室(但馬)



商工会と連携した技能実習生対象講座(西播磨)

f 日本語学習支援人材育成事業

地域の実情に応じた外国人県民への日本語学習支援を推進するとともに、日本語能力が不十分な外国人児童生徒への日本語・学習支援の効果的な支援方法の普及を図るため、日本語教師、学校関係者、ボランティア等を対象に、外国人県民・児童生徒の支援に役立つ研修を実施。

- (a) 生活者としての外国人県民への学習支援ボランティア対象研修
 ・回数等：全4回（連続講座3回、公開講座1回）、計12.5時間
 ・内 容：1回目～3回目は連続講座、最終回は単発で参加可能な公開講座

◇連続講座

- ・時 期：第1回 10月10日（土）、第2回 10月24日（土）、
第3回 11月23日（月・祝）
- ・会 場：姫路市国際交流センター
- ・内 容：HIA 開発教材『くらしのにほんご』（「標準的カリキュラム案」準拠）
の活用方法理解と共にPDCA サイクルを体験し実践改善力を養った。
- ・受講者：延べ42人

◇公開講座 ※オンライン（Zoom）で実施

- ・時 期：12月20日（日）
- ・テーマ：「コミュニケーションに必要な文法」
- ・受講者：61人

(b) 日本語教師対象初期日本語教室担当人材育成研修

- ・回数等：全4回（連続講座3、公開講座1回） 計14.5時間
- ・対象：日本語教師（有資格）

◇連続講座 ※第1回はオンライン（Zoom）で実施

- ・時期：第1回 8月7日（金）、第2回 8月20日（木）・21日（金）、第3回 9月3日（木）・4日（金）
- ・内容：HIA日本語登録講師やモデル事業での授業担当が想定される教師を対象に、授業見学を取り入れ、初期日本語教育の目的や教室方法の在り方を共有
- ・受講者：延べ19人

◇公開講座 ※オンライン（Zoom）で実施

- ・時期：1月22日（金）
- ・テーマ：「外国人の受け入れと地域日本語教育」
- ・受講者：81人

(c) 外国につながる子どもへの日本語・学習支援を考える研修会

※オンライン（Zoom）で実施

- ・時期：12月12日（土）
- ・対象：外国をルーツとする児童生徒への日本語支援を行う地域教室のボランティア等支援者
- ・テーマ：「コロナ禍を生きるー海外ルーツの子どもたちに今、必要な支援とは」
- ・受講者：50人

(d) 市町・国際交流協会職員対象：日本語教室担当者のための基礎講座

※第3回はオンライン（Zoom）で実施

- ・時期：第1回 8月3日（月）、第2回 9月29日（火）、第3回 11月20日（金）
- ・対象：県内の自治体や国際交流協会等で地域日本語教育を所管・担当する職員等
- ・内容：地域日本語教育の役割、コーディネーターの役割、教室見学、課題解決に向けての方法論等
- ・受講者：延べ23人



外国につながる子どもへの日本語・学習支援を考える研修会

g ICT 教材等先進事例普及啓発事業

(a) ICT 教材紹介と ICT を利用した学習方法の普及啓発

居住地域に関わらず日本語学習が可能になるための環境整備の一環として ICT 教材を活用した学習について検討。令和 2 年度は文化庁が公開予定の ICT 教材の活用方法を紹介する研修会を開催した。

※オンライン（Zoom）で実施

- ・時 期：1 月 16 日（土）
- ・回数等：1 回、2.5 時間
- ・テーマ：「まずは使ってみませんか？オンライン日本語学習教材『つながるひろがる にほんごでのくらし』」
- ・受講者：63 人

(b) 生活に必要な日本語のニーズ別学習支援方法の検討

地域の日本語教室において多様化する外国人学習者のニーズに対応するため、学習者の属性（技能実習生、日本人配偶者、日系人等）や生活上の必要性（教育、安全に暮らす、社会参加等）を踏まえ、各教室で参考にしやすいように地域事例を整理し、情報提供した。

(c) 入門期の外国人が学習しやすい教材の作成・普及

標準的カリキュラム案を参考に HIA が 2015 年に作成した『くらしのにほんご』（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語版）の内容を入門レベルに焦点を当てて整理。

第 1、2 課の試行版を作成し、「すぐに役立つ日本語講座」の 1 クラスで試行。結果を検証した上で第 3 課以降の作成準備に着手。

h 地域日本語教育啓発事業

(a) 住民参加型イベント・研修会

モデル事業実施地域における日本語学習者等の社会参加促進に向けて、住民参加型イベント等を地域の実情に合わせ、新型コロナウイルス感染予防対策を行った上で実施した。

・実施地域：モデル事業の一環として下記の 4 地域で実施

地 域	内 容	参加者
丹 波	日本語スピーチ動画インターネット配信及び録画 DVD の貸し出し	スピーチ：8 人
北播磨	日本語スピーチ及びインタビューをケーブル TV で放映	スピーチ及びインタビュー：4 人
西播磨	たつの市環境課出前講座「外国人住民と一緒に再確認！ゴミと資源とリサイクル」	外国人参加者 20 人 日本人参加者 22 人
	たつの市内 4 か所で日本語教室や出前講座のパネルを巡回展示	来場者：約 200 人
但 馬	やさしい日本語講座	日本人参加者：18 人

(b) 地域日本語教育シンポジウムの開催

市町・市町国際交流協会の理解を深めるため、兵庫県で取り組む文化庁事業、国の動向、市町の役割等について説明するシンポジウムを開催した。

※オンライン（Zoom）で実施

- ・時 期：8月26日（水）
- ・参加者：54人



住民参加型イベント(たつの市)



地域日本語教育シンポジウム

(イ) 母語教育の普及啓発

(R2年度決算額 664 千円) (R元年度決算額 162 千円)

母語教育は、外国人児童生徒にとりアイデンティティの確立や精神的安定が得られる等大きな効果があるとされているため、母語教育の必要性を普及啓発するパンフレット・事例集（ベトナム語版及びポルトガル語版）を作成。

- ・対 象：学校関係者、母語教育関係者、保護者、一般県民等
- ・内 容：12 ページ程度の簡単なパンフレット・事例集を日本語・母語併記で作成



ベトナム語版及びポルトガル語版の母語啓発パンフレット

イ 日本語・母語等の教育支援に係る地域連携

(ア) 外国人県民・児童生徒の居場所づくり

(R2年度決算額 14,011 千円) (R元年度決算額 17,131 千円)

外国人県民・児童生徒が定期的集まることができ地域社会で生活する拠点となると共に、日常生活や緊急時のセーフティーネットとして機能する外国人県民・児童生徒の「居場所づくり」を行う地域の日本語教室等を支援。

なお、コロナ禍にあっても、細心の感染予防対策を取るか、あるいはオンラインを活用して教室を継続実施した。

【基本メニュー】

- a 地域日本語教室の開催
 - ・講座数：65 講座
- b 外国人児童生徒対象の日本語教室・日本語による学習支援教室の開催
 - ・講座数：31 講座
- c 外国人児童生徒対象の母語教室・母語による学習支援教室の開催
 - ・講座数：22 講座
- d 技能実習生等対象の母語を交えての日本語教室の開催
 - ・講座数：4 講座

【追加メニュー】

※上記基本メニューに加えて、地域のニーズに合った取組を実施。

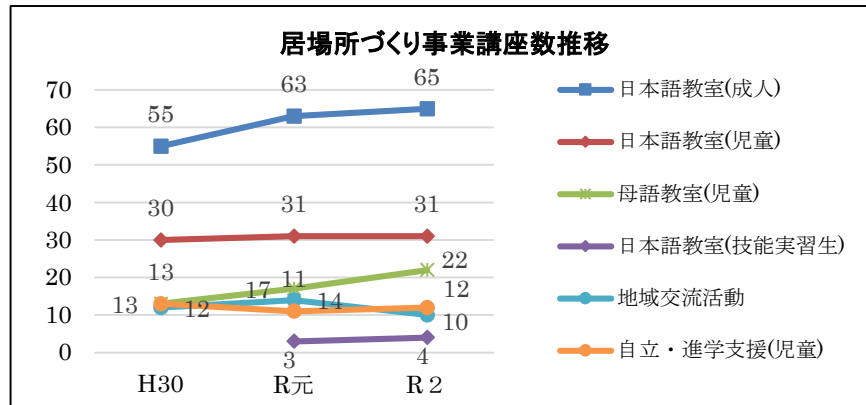
- a 地域との交流活動事業の実施
母語のスピーチ大会、地域の人との交流を深める体験学習、県内視察等
 - ・事業数：10 事業
- b 外国人児童生徒の社会的・職業的自立を支える事業の実施
将来の目標を考えるワークショップ、就職のための面接練習会等
 - ・事業数：5 事業
- c 外国人児童生徒の進路・進学や未就学児童生徒等の学習（プレスクール）を支える事業の実施
入園・入学及び就学前の児童生徒のためのプレスクール教室等
 - ・事業数：7 事業



明石二見日本語教室「こんにちは」(明石市)



セワスクール(神戸市)



(2) 外国人県民への生活支援

ア ひょうご多文化共生総合相談センターの運営

(R2年度決算額 37,170 千円) (R元年度決算額 36,382 千円)

国の「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」に基づき、外国人県民への総合生活相談窓口機能を有するセンターとして県が設置する「ひょうご多文化共生総合相談センター」を運営。「ひょうご多文化共生総合相談センター」では、平日の生活相談は「外国人県民インフォメーションセンター」が実施し、週末相談についてはNGOと協働で「週末相談窓口」において実施。

(ア) 外国人県民インフォメーションセンターの運営

(R2年度決算額 29,914 千円) (R元年度決算額 27,706 千円) 【県委託】

医療、くらし、社会保障、教育、労働など外国人県民の日常生活の多様な相談に応じるため、5言語による相談員及び専門相談員による生活相談を実施。

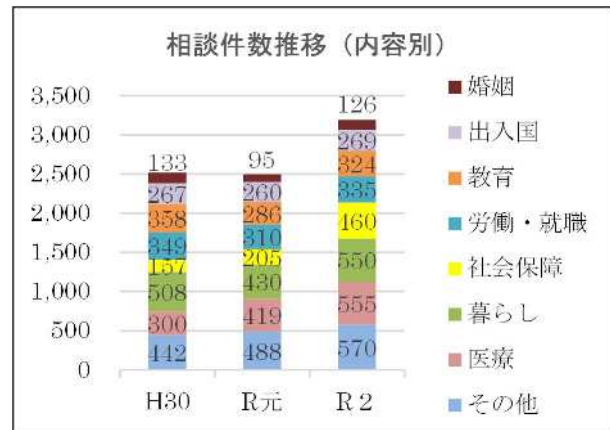
また、翻訳アプリ及び外部通訳の活用により、ベトナム語、韓国語、タガログ語、インドネシア語、タイ語、ネパール語での対応を実施した(合計11言語)。

なお、コロナ禍のため、相談件数については、医療、社会保障など、令和元年度に比べ約30%増加した。

- ・開設日時：月曜日～金曜日 9:00～17:00
- ・体制：センター長1人、相談員5人
- ・対応言語：(相談員) 日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語
(翻訳アプリ等※) ベトナム語、韓国語、タガログ語、
インドネシア語、タイ語、ネパール語
※当該6言語は法律相談を除く。
- ・相談件数：3,189件(R元実績 2,493件)
(分野別件数 ①医療555件、②くらし550件、③社会保障460件、
④教育324件、⑤出入国269件、⑥労働266件、)
(言語別件数 ①スペイン語1,692件、②ポルトガル語651件、③日本語349件、
④英語267件、⑤中国語219件)



外国人県民インフォメーションセンター



（イ） 週末相談窓口の運営

（R2年度決算額 5,264 千円）（R元年度決算額 5,486 千円）【県委託】

平成 31 年 4 月の改正入管法の施行に伴い、外国人労働者の増加が見込まれることから、外国人県民インフォメーションセンターでの相談体制を補完する週末相談を、NGO と協働で実施した。

また、週末相談においても、翻訳アプリ及び外部通訳の活用により、11 言語（日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、韓国語、タガログ語、インドネシア語、タイ語、ネパール語）対応を実施した。

- ・実施団体：NGO 神戸外国人救援ネット
- ・開設日時：土・日曜日 9:00～17:00
- ・体制：専門相談員 2 人が翻訳アプリ・外部通訳も活用して対応
- ・対応言語：（相談員）日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語
（翻訳アプリ等）韓国語、タガログ語、インドネシア語、タイ語、ネパール語
- ・相談件数：441 件（R 元実績 375 件）
（分野別件数 ①出入国109件、②婚姻63件、③暮らし57件）
（言語別件数 ①英語 127 件、②タガログ語 120 件、③日本語 100 件）

（ウ） 外国人県民相談ネットワーク推進会議の開催

外国人県民からの相談内容が多岐に渡っていることから、関係機関との連携を強化し情報共有を図るため、公的機関や外国人県民の生活支援関連機関等が集い、意見交換等を実施した。

※オンライン（Zoom）で実施

- ・日時：12 月 3 日（木）
- ・参加団体：37 団体

イ NGO/NPO が行う夜間相談活動等の実施

(R2年度決算額 1,992 千円) (R元年度決算額 1,992 千円) 【県委託】

NGO 等と連携し、外国人県民に対する夜間相談、地域相談を実施した。

団体名	対応言語	相談日時	件数
NGO 神戸外国人救援ネット	英・スペイン・ポルトガル・タガログ語	毎週金曜 17 時～20 時	158
特定非営利活動法人 篠山国際理解センター	英・ポルトガル語	毎週水曜 13 時～16 時	193

ウ HIA 日本語及び多言語 Web サイトの運用・保守

(R2年度決算額 3,171 千円) (R元年度決算額 2,322 千円)

平成 30 年 9 月に全面リニューアルした日本語 Web サイト及び多言語 Web サイトを通じて県内在住の外国人、支援者等に対する生活・講座情報等が円滑に発信できるよう、同システムの運用・保守を実施。

- ・トップページに「外国人県民へのお知らせ」のタブを設置
- ・必要な情報を容易に検索できるようにトップページに 6 つの紹介窓口を設定



トップページ「外国人県民へのお知らせ」のタブを設置



トップページに設定した 6 つの紹介窓口

エ 災害時外国人支援

【拡充】

(R2年度決算額 1,519 千円) (R元年度決算額 861 千円)

在住外国人が増加する中、災害時に外国人住民も被災者となるケースも増加している。言葉や文化の違いによって、災害時に必要な情報を得ることが難しい外国人住民もいることから、特別な支援の必要性が想定される。そのため、災害時におけるひょうご多言語広域支援センターの設置訓練の実施等、災害時に備えるとともに市町及び市町国際交流団体の取組を推進。

(ア) ひょうご多言語広域支援センター設置・運営訓練

ひょうご多言語広域支援センター設置に係るノウハウを習得するため、訓練を実施。

- ・時 期：11 月 26 日（木）
- ・内 容：ひょうご多言語広域支援センターの説明、設置・運営マニュアルの検証、グループワーク 等

- ・講 師：土井 佳彦氏 多文化共生マネージャー全国協議会代表理事
- ・参加者：HIA 職員 21 人、兵庫県国際交流課 1 人

(イ) 研修会の実施

「災害時通訳・翻訳ボランティア」の人材育成のため、研修を実施。

- ・時 期：3月13日（土）
- ・内 容：多言語情報提供のあり方と実践
- ・講 師：八木 浩光氏 （一財）熊本市国際交流振興事業団 事務局長
- ・参加者：多言語通訳・翻訳ボランティア、市町国際交流協会職員等 48 人

(ウ) 災害時外国人支援助成事業

県内の市町国際交流団体等が行政と連携して実施する災害時の外国人支援事業に対して助成するため、募集を行ったが、新型コロナウイルスの影響により、防災講座等を実施できず、申請がなかった。

(エ) 災害時外国人支援ツール開発事業

日本語によるコミュニケーションが困難な外国人被災者が抱える不安を軽減するため、避難所で指差しにより最低限の意思疎通を可能とする「多言語指さしボード」を（一財）自治体国際化協会と協働して開発。県内市町の災害対策担当課及び市町国際交流協会にラミネートしたボードをサンプルとして送付し、活用方法の周知と併せて研修会を開催した。

- a 記者発表（資料配布）：10月7日（水）
 - ・産経（10/11）、朝日（10/14）、読売（10/25）、神戸（11/1）に記事掲載
- b 啓発事業 ※オンライン（Zoom）で実施

災害時の外国人対応及び指さしボードの使い方について研修を実施

 - ・時 期：12月22日（火）
 - ・対 象：市町及び市町国際交流協会
 - ・内 容：災害時の外国人対応について
 - ・講 師：人と防災未来センター 楊梓主任研究員
 - ・参加者：18 団体 29 人

(オ) 外国人県民向け多言語情報発信

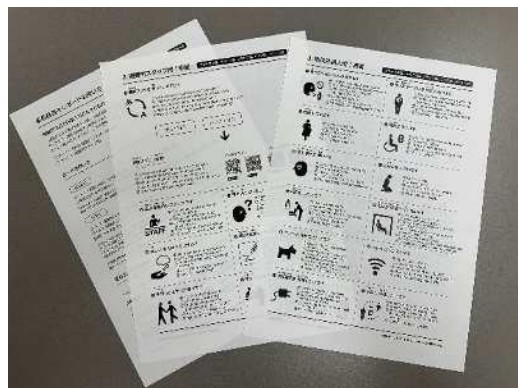
災害時等に早急に必要な情報を外国人県民に届けるため、翻訳事業者と委託契約を締結し、新型コロナウイルスに関する情報の多言語化を行った。

- ・委託先：特定非営利活動法人多言語センターFACIL
- ・多言語化した情報：

知事メッセージ、感染防止の徹底についての周知、発熱等受診・相談センター
啓発チラシ、飲食店等に対する営業時間短縮の要請 等



ひょうご多言語広域支援センター設置・運営訓練



多言語指差しボード

オ 外国人県民生活サポート活動の支援

(R2年度決算額 4,500 千円) (R元年度決算額 4,500 千円)

外国人コミュニティによる母語での相談や情報提供など生活支援活動に対する支援を行うほか、特に子どもに対する母語教室や母文化保持イベントの開催等の支援を拡充した。

- ・対象団体：特定非営利活動法人関西ブラジル人コミュニティ CBK、ひょうごラテンコミュニティ、ベトナム 夢 KOBE

カ 医療機関における外国人患者受入環境の整備

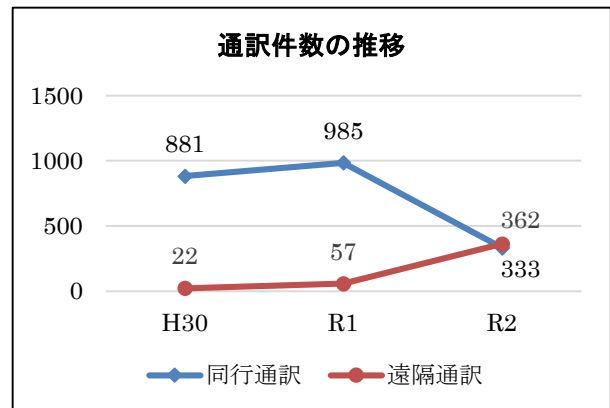
(R2年度決算額 3,001 千円) (R元年度決算額 3,002 千円)

医療機関における外国人患者受入環境を整備するため実施する医療通訳コーディネーターの配置に伴う人件費及び遠隔地通訳システム構築に要する経費の一部を助成。

- ・対象団体：特定非営利活動法人多言語センターFACIL
- ・対象事業：①医療通訳コーディネーターの配置
②遠隔地通訳支援システム構築
- ・件数：同行通訳 333 件、遠隔通訳 362 件
(R元実績 同行通訳 985 件、遠隔通訳 57 件)



遠隔通訳対応の様子



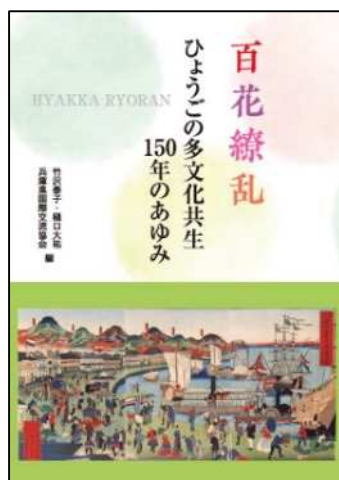
(3) 多文化共生への普及啓発

ア 兵庫県 150 周年・多文化共生記録誌の作成

(R2 年度決算額 5,622 千円) (R 元年度決算額 2,048 千円)

多様な文化が共存する兵庫県の魅力発信と多文化共生意識の更なる向上を図るため、多文化共生記録誌を作成した。

- ・内 容：外国人県民との共生の歴史や現状について、県民に分かりやすく記述
- ・編集協力者：多文化共生関係団体、学識者等



『百花繚乱 ひょうごの多文化共生 150 年のあゆみ』

イ 多文化共生を考える研修会の開催

(R2 年度決算額 1,292 千円) (R 元年度決算額 1,308 千円)

外国人県民と接する機会の多い行政職員、教員、日本語教師、ボランティア等が、多文化共生について理解を深めることができる研修会を NGO と協力しながら開催した。

※オンライン (Zoom) で実施

- ・時 期：10 月 29 日 (木)、11 月 1 日 (日)、11 月 5 日 (木)、11 月 8 日 (日)
- ・内 容：

第 1 回【総論】

- 見えない境界線に生きる～多様性を当たり前にするために～
- 入管法 90 年改正 30 年ー『日系人』受け入れを振り返る

第 2 回【外国にルーツをもつ子どもの教育】

- 「発達障害」とされる外国人の子どもたち
- 外国ルーツの子どもと保護者の困りごとへの対応、神戸市の新しい取組

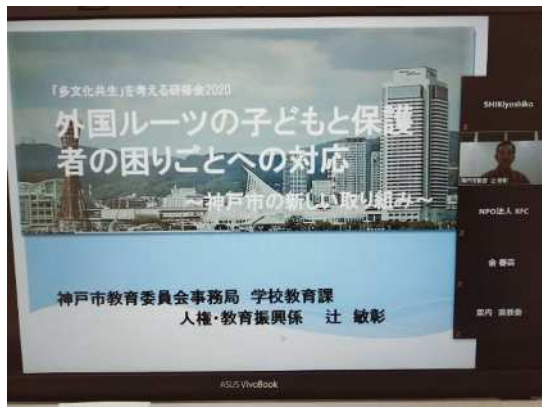
第 3 回【地域における多文化共生の取組】

- 愛知県と豊橋市多文化共生の取組
- 外国人住民への新型コロナウイルスの影響

第 4 回【難民・移民支援の現状】

- 難民支援の現状
- 地域における多様性理解～心の距離を縮めるには～

- ・参加者：延べ 272 人
- ・対 者：行政職員、教員、日本語教師、ボランティア、外国人支援 NGO 等



辻 敏彰氏(神戸市教育委員会)による講演



三木 幸美氏(とよなか国際交流協会)による講演

2 交流人口の拡大

草の根による国際交流や国際会議の開催、県民の国際理解の促進を通じて、国内外の人的交流を推進し、県民の国際交流を進める事業を実施。

(1) 国際交流の推進

ア ひょうご国際プラザの管理・運営

(R2年度決算額 125,944 千円) (R元年度決算額 126,276 千円) 【一部県委託】

各種国際関係情報の提供やNGO等と連携した展示など国際交流等の場として設置している「ひょうご国際プラザ（国際情報センター・交流ギャラリー）」を管理、運営。

なお、交流ギャラリーでは当初予定されていた一部の展覧会が中止となる一方で、計画になかった「記憶の跡をたどって—ポーランドにおけるユダヤ人の過去へのまなざし」展を開催し、TV、新聞等のメディアに大きく取り上げられた結果、新規の来館者を多く獲得した。

(ア) 利用実績

	令和元年度	令和2年度	対前年度比
施設利用者数	22,074 人	6,911 人	31.3%
図書貸出数	6,872 冊	4,214 冊	61.3%
交流ギャラリー展示件数	8 件	4 件	50.0%

(イ) 新型コロナウイルス感染拡大防止の対応

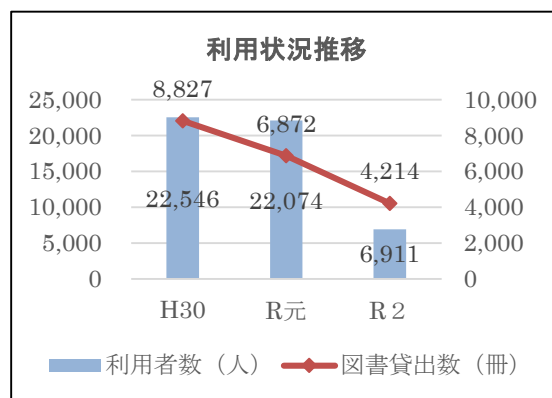
- ・臨時休館：4月1日（水）～5月31日（日）
- ・開館時間短縮※：6月1日（月）～3月31日（水）

※開館時間を 10:00～18:30→10:00～17:00 に短縮

- ・学習スペース閉鎖：1月15日（金）～3月31日（水）



国際情報センター



交流ギャラリー「記憶の跡をたどって—ポーランドにおけるユダヤ人の過去へのまなざし」展



交流ギャラリー「「につぼん—大使たちの視線 2020」写真展

イ 兵庫県海外事務所の運営

(R2年度決算額 157,019 千円) (R元年度決算額 177,197 千円) 【県委託等】

兵庫県の国際戦略を推進するための拠点として、世界的なコロナ禍の中、オンラインでの活動を中心に、海外における友好交流、経済交流、観光交流事業を展開するため、兵庫県ワシントン州事務所、西オーストラリア州・兵庫文化交流センター、兵庫県パリ事務所、兵庫県ブラジル事務所及び兵庫県香港経済交流事務所の機能維持を図り運営。

(ア) 経済交流事業の展開

ひょうご産業活性化センターとの連携により、現地事務所のネットワークを生かして、地場産品の海外販路開拓など県内企業の現地活動を支援。また、海外の経済発展を本県の新たな経済成長に取り込むため、外国・外資系企業の県内への誘致を促進。

(イ) 観光交流事業の展開

観光フェア等への出展やセミナーの開催など様々な機会を捉えて、現地の政府関係者・旅行業関係者などに対して本県をPRすることで、外国人観光客の誘致を図った。

(ウ) 友好交流活動の展開

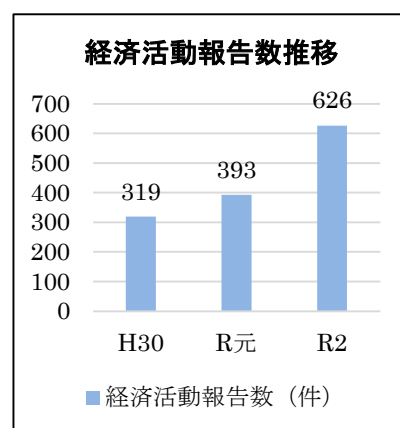
友好・姉妹州省を中心とする世界の各地域と双方の課題解決に向けた交流を推進するため、市町レベル・県民レベルの交流支援のほか、兵庫のプレゼンスを高めるための日本文化紹介事業や日本語教室の開催、学校間交流など、草の根レベルの友好交流活動を実施。

(エ) 草の根ネットワークの構築

海外事務所の円滑な運営を図るため、現地関係者・団体等とのネットワークを構築し、人材活用など相互に協力。また、ワシントン州及び西オーストラリア州では、これまでの文化活動を通しての草の根活動を継続し、南米では本県出身者の現地コミュニティ活動の支援を行った。



県立大学生オンラインインターンシップ受入れ(ワシントン州)





スクールビジット(西オーストラリア州)



バルビゾン村訪問(パリ)



「兵庫県日本酒体験」イベント(ブラジル)



神戸ワインのプロモーション(香港)

ウ 海外展開支援ブースへの出展

(R2年度決算額 251 千円) (R元年度決算額 343 千円)

中小企業の海外展開支援に対する海外事務所の積極的な取組をアピールするため、国際フロンティア産業メッセに出展した。HIA のブースでは、各種パンフレットやクリアファイル、エコバッグ等を参加者に配り、知名度や活動の認知度の向上に努めた。

- ・時 期：9月3日(木)・4日(金)
- ・出店規模：289 社・団体
- ・来場者数：約1 万名(2 日間計、会場全体)

エ 県民交流団の派遣

【新規】

(R2年度決算額 0 千円)

兵庫県が令和2年度、パラナ州との友好提携締結 50 周年、海南省との友好提携締結 30 周年を迎えることから、これらを記念し友好関係を推進するため、両州省へ県民交流団の派遣と県・現地政府との共同記念行事に参加することを予定していたが、コロナ禍により令和3年度へ延期。

- ・ブラジル・パラナ州(参加者：15 人程度、時期：R2 年夏頃→R3 年秋以降)
- ・中国・海南省(参加者：15 人程度、時期：R2 年秋頃→R3 年秋以降)

オ ひょうごホームステイ受入の調整

(R2年度決算額 0 千円) (R 元年度決算額 124 千円)

県内に滞在する外国人に兵庫の魅力を知ってもらうとともに、外国人及び受入家庭の双方が異文化に対する理解を深め、交流を活発化できるよう、ホストファミリーとホームステイを希望する外国人のマッチング等を行う予定であったが、新型コロナウイルスの拡大に伴う入国制限により、毎年ホームステイを実施していた交流事業が中止となったため、受入がなかった。

- ・ホームステイの対象：HIA 及び関連団体の実施する各種青少年交流プログラム参加者、県内大学等の留学生で大学から受入れ依頼があった者 等
- ・登録家庭：85 家庭

カ 訪日教育旅行の誘致促進・学校交流支援

(R2年度決算額 8,394 千円) (R 元年度決算額 8,847 千円) 【県補助】

訪日教育旅行において重視されている学校交流等を県内において促進するとともに、若年層の交流拡大によるリピーターや兵庫のファンづくりを図るため、教育委員会・学校・地域等における受入体制の充実に向けた調整等に取り組んだ。

コロナ禍のため、学校交流については、対面では実現しなかったが、台湾の学校との間のWeb交流を支援し、プロモーション活動については、関西5府県でオンラインセミナー等に参加した。

(ア) 学校交流等受入実績 (Web 交流)

12 件 516 人 (R 元実績 26 件 731 人) ※令和2年度は全て台湾

(イ) オンラインセミナー等

a 訪日教育旅行オンラインセミナー

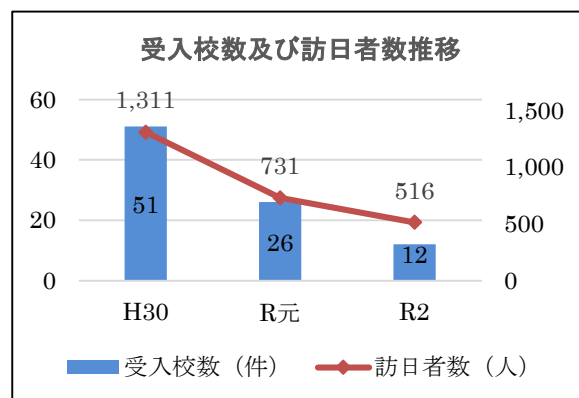
- ・時期：12月4日(金)
- ・対象：北米で日本語教育に携わる教師及び教育関係者

b オンライン大商談会

- ・時期：2月3日(水)～2月5日(金)
- ・対象：台湾の各学校教育旅行及び教育旅行関係者



オンライン交流の様子(明石高校)



キ 草の根の国際交流の推進

(R2年度決算額 330 千円) (R元年度決算額 757 千円)

HIA 事業・活動への支援組織である HIA 友の会会員を中心に、県民が主体となった草の根の国際交流や多文化共生づくりを積極的に実施。

(ア) 交流の集い 新型コロナウイルス感染予防のため中止

(イ) 国際交流サロン

- ・第1回 1月29日(金) 実施で準備→新型コロナウイルス再拡大のため延期
(概要：エジプト文化とやさしいエジプト語)
- ・第2回 2月26日(金) 実施で準備→新型コロナウイルス再拡大のため延期
(概要：台湾文化とやさしい台湾語)

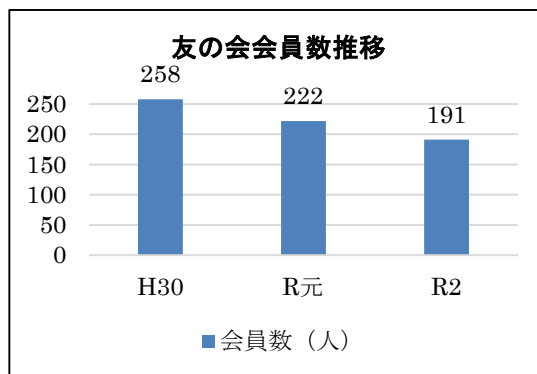
(ウ) 食文化交流教室

- ・第1回(Web開催) 11月27日(金) から収録・編集、12月16日(水) からWeb公開
(エジプトの「米粉プリン」)
- ・第2回(Web開催) 1月13日(水) から収録・編集、2月15日(月) からWeb公開
(台湾の「鶏肉飯」)

(エ) 友の会会員 191 人 (R元実績 222 人)



食文化交流教室(第1回・エジプト)



ク インド・グジャラート印日友好日本庭園への協力

【新規】

(R2年度決算額 3,036 千円)

兵庫県が友好提携を行うインド・グジャラート州の印日友好協会において、令和元年度にひょうご海外研修員として迎えた建築家による日本庭園の建設計画が進む中、HIA から日本庭園に係る技術指導を行うとともに、友好の象徴として装飾用淡路瓦等を寄贈し、相互理解と草の根交流の更なる促進を図る。

(ア) 専門家の指導

新型コロナウイルス感染予防のため派遣を中止し、兵庫県公園緑地課がテレビ会議により指導

(イ) 装飾用淡路瓦等の寄贈

淡路瓦のほか、播州鯉(鯉のぼり)、明珍風鈴も併せて寄贈した。



淡路瓦で描いた枯山水のイメージ

(2) 知的交流の推進

ア 国際協力セミナーの開催

(R2年度決算額 73 千円) (R元年度決算額 127 千円)

開発途上国をめぐる諸問題や国際協力に対する県民の理解を深め、国際協力活動への参画を促すため、国際協力の専門家、県内 NGO の活動家や青年海外協力隊 OB 等を講師に招き、国別・テーマ別のセミナーやフォーラムを開催。

(ア) 第 1 回 ※オンライン (Zoom等) で実施

・時 期：10月10日 (土)

・参加者：333人

・内 容：「地球のステージ ～音楽にのせて、地球の声を聴く～」

ライブ音楽と映像、スライドと語りを組み合わせたコンサートステージを心療内科医で国際医療支援活動などを展開する NPO 法人代表の桑山紀彦氏が、世界の紛争、環境問題、感染症などをテーマに進行。

(イ) 第 2 回 ※オンライン (Zoom) で実施

・時 期：2月20日 (土)

・参加者：124人

・内 容：「喫茶カリブ ～コーヒーから知る、中米の魅力～」

第一部ではホンジュラス国立フランシスコ・モラサン教育大学の中原篤史客員教授から、バナナとコーヒーを題材とした中米の歴史や政治、経済について学び、第二部では、元 JICA 海外協力隊員 3 名が、コスタリカ等中米への派遣時の生活や現地の様子、コーヒー農家とのつながりや環境への思いなどを語った。



地球のステージ(第1回)



司会の様子(第2回)

イ オックスブリッジ英語サマーキャンプの実施

(R2年度決算額 0 千円) (R元年度決算額 2,378 千円)

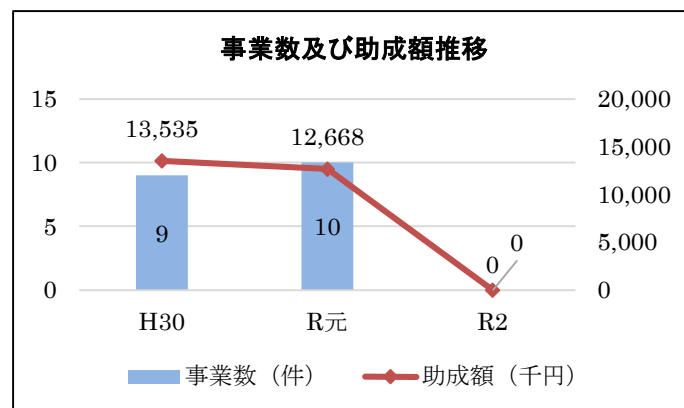
オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生を県内大学・高校等に派遣し、英会話授業や国際交流事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大による入国制限等のため中止した。

ウ 国際会議開催への助成

(R2年度決算額 0 千円) (R元年度決算額 12,669 千円)

県内への国際会議誘致を促進するため、会議開催費の一部を助成することとし、14 件 18,650 千円 (R元実績 10 件 12,668 千円) の執行を見込んでいたが、コロナ禍の影響で全てキャンセル又は延期となった。

- ・キャンセル：7 件 5,950 千円
- ・令和3年度に延期：4 件 7,700 千円、令和4年度に延期：3 件 5,000 千円



エ 国際会議場の活性化への支援

(予算額 500 千円)

(R2年度決算額 500 千円) (R元年度決算額 500 千円)

国内外のさまざまな人と交流・体験できる「こころづくり絵画コンクール」を美しい自然環境に囲まれた淡路夢舞台国際会議場を会場に、株式会社夢舞台などと共催により開催。

- ・時 期：10 月 4 日 (日)
- ・参加者：646 人 (うち外国籍 60 人)

(3) 国際理解の促進

ア 民間国際交流事業への助成

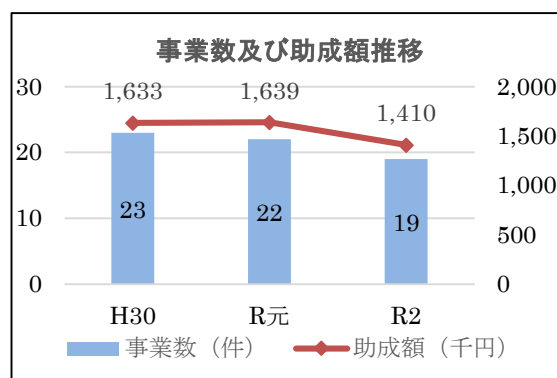
(R2年度決算額 1,478 千円) (R元年度決算額 1,706 千円)

県民による国際交流活動を育成・奨励するため、先駆的・先導的な国際交流事業に対し助成。

- ・助成額：助成対象経費の1/2（上額10万円）
- ・対 象：県内で国際交流活動に継続的に取り組む NGO/NPO 等の非営利団体が行う国際交流事業
- ・交付決定件数：28 件 1,999 千円（うち9件辞退）（交付件数：19 件 1,410 千円）



ぐるっとワールド in Miki(三木市国際交流協会)



イ 国際交流団体等ネットワークの構築

(R2年度決算額 891 千円) (R元年度決算額 1,327 千円)

県内の国際交流団体が有するノウハウや情報の共有、有効活用を図るネットワークを構築し、団体相互の連携を推進するため、「ひょうご国際交流団体連絡協議会」（平成25年6月設立）の活動を支援するとともに、「ひょうご国際交流メールマガジン」を広く配信するなど、情報発信の強化を推進。

(ア) 協議会加入団体

HIA、県内36市町国際交流協会及び4町（準会員）

(イ) 協議会事業内容

a 総会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月下旬に書面開催

b 講演会の開催 ※オンライン（Zoom）で実施

- ・時 期：9月28日（月）
- ・講 師：ランゲージワン（株） カブレホス・セサル氏
「日本で暮らす外国人との共生に向けて」
- ・参加者：15団体30人

c 情報共有・発信

- ・地域別意見交換会による情報共有（6地域で各1回）

- ・ひょうご国際交流メールマガジンによる各団体のイベント情報の掲載（14回）
- ・facebook による協議会事業、会員団体事業及び災害時等の情報の発信（119回）
（知事メッセージ37件、新型コロナウイルス関連33件、その他49件）
- ・クレア、近畿クレア実施の研修会等の案内
- ・地域で活躍する外国人を「“応援しよう” ひょうごの仲間」として紹介（6人）

d 人材育成事業

- 通訳・翻訳ボランティア研修 ※オンライン（Zoom）で実施
コミュニティ通訳ボランティア向けの研修を開催
 - ・時 期：12月6日（日）
 - ・講 師：多言語通訳コミュニティネットワーク共同代表 飯田 奈美子氏
 - ・参加者：20人
- 「やさしい日本語」講師の派遣 ※一部、オンライン（Zoom）で実施
 - ・会員団体が実施する講座に講師を派遣（11回）

e 啓発・普及事業

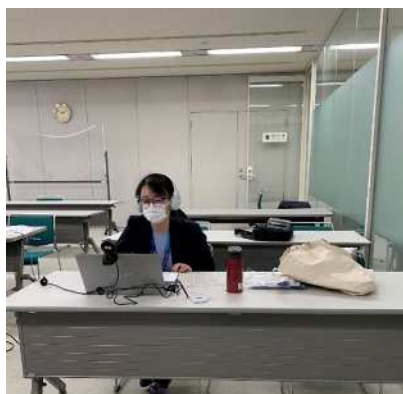
- 地域別意見交換会の開催（再掲）
- 会員紹介冊子の発行（年1回）
- 研修会の開催 ※オンライン（Zoom）で実施
災害時の外国人対応及び多言語指さしボードの使い方について（再掲）
 - ・時 期：12月22日（火）
 - ・講 師：人と防災未来センター 楊梓主任研究員
 - ・参加者：18団体29人

f 表彰事業

国際理解や多文化共生の推進に貢献した個人、団体を草の根国際功労賞として表彰

- ・個 人：2人
- ・団 体：3団体

※通常は総会実施と併せて表彰式を行うが、総会が書面開催となったため、令和3年度の受賞者と併せて表彰することとした。



オンラインによる多言語指さしボード講習



「やさしい日本語」講座

ウ ひょうご国際交流キャラバンプロジェクト

(R2年度決算額 5,025 千円) (R元年度決算額 5,109 千円)

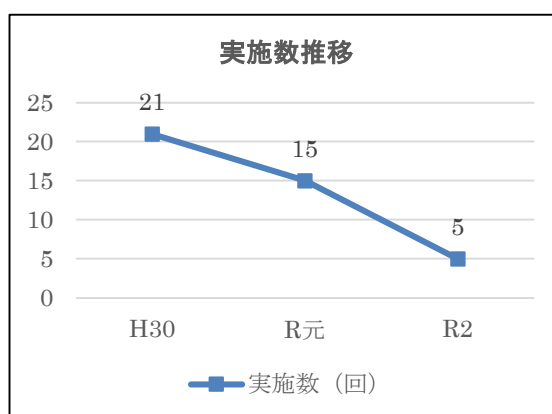
兵庫県国際交流員 (CIR) を HIA 内に配置するとともに、「ひょうご国際交流団体連絡協議会」の会員団体等と連携して、CIR の企画による国際交流イベントを各地で実施することにより、各地域の団体の活性化、ネットワーク強化を図った。

- ・事業主体：「ひょうご国際交流団体連絡協議会」の会員団体等との共催事業
- ・回数：5回 (R元実績 15回)

実施日	行事名	団体名
8月30日 (日)	インターナショナルデー	播磨町国際交流協会
10月24日 (土)	はじめての国際交流	加古川市国際交流協会
10月27日 (火)	お互いの文化を知り合おう	尼崎市国際交流協会
11月27日 (金)	キッズインターナショナルスクール2020	たつの市国際交流協会
2月13日 (土)	NIA地球っこクラブ (オンライン実施)	西宮市国際交流協会



キッズインターナショナルスクール2020(たつの市)



エ 草の根の国際交流の推進

〔再 掲〕

オ 海外移住と文化の交流センターへの支援

(R2年度決算額 502 千円) (R元年度決算額 501 千円)

平成 21 年 6 月に開館した神戸市立海外移住と文化の交流センターにおいて、在住外国人が日本人へ自国文化を発信し交流する事業を NPO 団体との協働で実施し、同センターの活用を図った。

(ア) ブラジル・日本の子どもの絵の交流展

- ・時 期：8月1日 (土) ～11月29日 (月)
- ・参加者：延べ約 630 人

(イ) 特定非営利活動法人関西ブラジル人コミュニティ CBK 設立 20 周年記念式典
式典は行わず、2月に写真展示するとともに記念誌を発行

- (ウ) サロンカーニバル
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



ブラジル・日本の子どもの絵の交流展

カ 広報紙 (Come HIA) の発行

(R2年度決算額 1,821 千円) (R元年度決算額 1,860 千円)

国際交流・協力に関する各種情報及び協会の活動状況等を掲載した広報紙「Come HIA」を発行し県民の国際感覚の醸成及び国際理解の促進を図る。また、外国人県民に向けて、英語版（電子版）を発行。10月号は100号となったため、これまでの事業を振り返る特集を行った。

- ・発行時期：10月、3月
- ・部 数：各号5,000部



広報誌「Come HIA」100、101号

キ 関係団体への支援

(決算額 各協会に計上)

兵庫 EU 協会、日本国際連合協会兵庫県本部、JICA 海外ボランティアひょうご応援団の活

動を支援することにより、国際問題や国際協力への関心を喚起するとともに、新たな交流のきっかけづくりとした。

(ア) 兵庫 EU 協会への支援

- a 在堺チェコ共和国名誉領事館職員講演会 ※オンライン (Zoom) で実施
 - ・時 期：2月3日 (水)
 - ・参加者：85 名

(イ) 日本国際連合協会兵庫県本部への支援

- a 難民問題セミナーへの支援
 - ・時 期：11月18日 (水)、11月25日 (水)、12月9日 (水)、12月16日 (水)
 - ・参加者：141 名
- b 防災教育イベント「イザ!美かえる大キャラバン」への共同出展
 - ・会場イベント：コロナ禍により中止
 - ・オンラインイベント：1月7日 (木)～2月22日 (月)HP 開設・HP 上で開催
 - ・参加者：122 名

(ウ) JICA 海外ボランティアひょうご応援団への支援

- ・JICA ボランティア派遣前オリエンテーションの支援→コロナ禍により行事中止
- ・JICA ボランティア帰国報告会(オンライン)の支援

3 人づくりへの貢献

外国人留学生への支援や外国人研修員の受入等国際社会を担う次代の国内外の人材育成を進める事業を実施。

(1) 外国人留学生の支援

ア 私費外国人留学生奨学金の支給

(R2年度決算額 52,330 千円) (R元年度決算額 52,893 千円) 【一部県補助】

留学生の生活の安定を図り学習活動を支援するため、私費外国人留学生に対し、奨学金を支給した。県内中小企業が人材として期待している東南アジア等からの留学生を確保するため、アジア新興国枠を設定(平成25年度～)。また、全カリキュラムを英語で行い、ビジネスマネジメントを学ぶ学科等の学生を対象とするグローバルビジネス枠を設定(令和元年度～)し、大学の更なる国際化を支援。

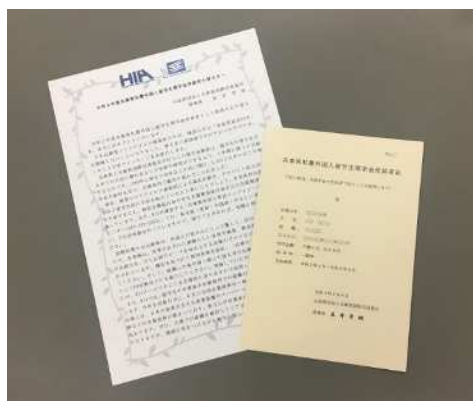
(ア) 支給実績 163 人(一般枠 85 人、グローバルビジネス枠 30 人、アジア新興国枠 48 人)

(イ) 特例措置

一時帰国後、新型コロナウイルスの影響で再渡日できない受給者については、大学等の遠隔授業を受講していることなどを勘案し、受給の権利を妨げないように、再渡日が確認できた時点で4月に遡って支給した(対象者15名のうち、再渡日できた13名に支給)。

(ウ) 就職活動支援の実施

「外国人のための企業説明会(Web方式)」(6月24(水)・25日(木))を関係機関と共催し、対象となる受給者に参加を促した。留学生約510人が参加し、国際的な人材を求める企業19社との合同就職面談会に臨んだ。



受給者証と理事長挨拶文



外国人のための企業説明会のチラシ

イ 留学生住宅機関保証推進システムの推進

(R2年度決算額 0 千円) (R元年度決算額 0 千円)

留学生の民間住宅への円滑な入居を進めるため、平成17年度から大学等が賃貸借契約の保証人となる機関保証の実施に当たって必要な資金の貸付を支援。

なお、近年、民間等の保証制度が充実し、平成19年度以降、貸し付け実績がない状況が続き一定の役割を果たしたことから、令和2年度限りで事業廃止となった。

- ・貸付先：留学生版安全・安心ネット連絡会
- ・事務局：兵庫県産業労働部国際交流課
- ・構成団体：10校（神戸大、関学大、兵庫県立大 ほか）
- ・貸付金額：100万円
- ・利用実績：令和2年度は無し（制度開始からの累計実績は4件）

(2) 人材育成

ア ひょうご海外研修員の受入

（R2年度決算額0千円）（R元年度決算額2,859千円）

兵庫県の友好州省をはじめとする諸外国から優秀な青年を研修員として受入れ研修機会を提供することにより、課題解決型の交流を促進する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大による入国制限等のため、受入を中止した。

イ セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流の促進

（R2年度決算額449千円）（R元年度決算額1,474千円）

セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流を行い、両県民間の相互理解と友好関係を促進する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大による入国制限等のため、研修員の受入及び日仏交流コーディネーターの派遣を中止した。

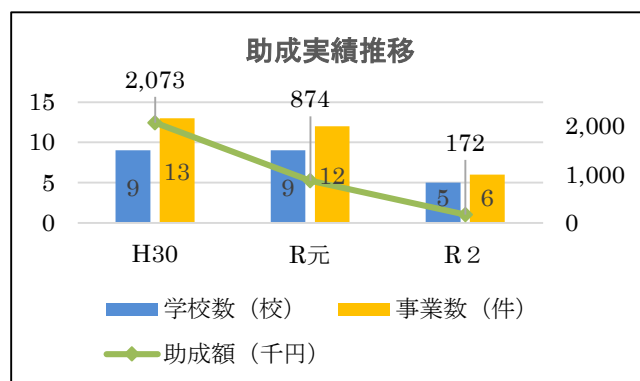
ウ 外国人学校交流の推進

（R2年度決算額176千円）（R元年度決算額1,000千円）

外国人学校に通う児童生徒が兵庫県内の自然とのふれあいや地域住民との交流を通し、地域、ひいては兵庫県への理解を深めることを目的に、外国人学校が実施する自然学校等の事業に対し助成。

コロナ禍のため、事業を中止・縮小する学校も多かったが、令和2年度から日帰りの事業も補助対象としたことにより、全6事業中5事業に助成できた。

- ・対象者：外国人学校
- ・助成額：助成対象経費の1/3（上限：428千円/校）
- ・内容：日帰り、または1泊2日以上 of 県内自然交流施設等での体験学習
- ・件数：6事業（うち日帰り5事業、1泊2日1事業）



《その他事業》

1 篠原住宅の管理

(R2年度決算額 収入 8,657千円 支出 7,908千円)

(R元年度決算額 収入 16,876千円 支出 27,691千円)

兵庫県が所有する旧オーストラリア総領事公邸を協会が借り受け、関西地域で活動する外国人ビジネスマン等への住宅物件として賃貸し、国際交流施設としての有効活用を図った。

なお、令和2年12月からは3棟全てで空き家となっている（A棟：R2.12月～、B棟：R2.7月～、C棟：R2.6月～）

- ・所在地：神戸市灘区篠原本町
- ・敷地面積：2,400 m²
- ・建物：鉄筋コンクリート造2階建 3棟（1,374 m²）

2 HIA 創立 30 周年記念事業

【新規】

(R2年度決算額 4,138千円)

創立30周年となる令和2年度に、これまでの30年を振り返るとともに今後のあるべき姿を考える記念事業を実施した。

(1) 記念式典及び講演会の実施

- ・時期：11月13日（金）
- ・場所：ラッセホール（神戸市中央区）
- ・内容：①記念式典 13:30～14:00
②記念講演会 14:00～16:00
- ・講師：ジェフ・バークランド氏（京都外国語大学国際貢献学部教授）
- ・テーマ：“さくらんぼに見えた梅干し” から半世紀～多文化共生「心」時代！～
- ・出席者：65人

(2) 記念誌の発行

- ・時期：10月
- ・部数：1,200部
- ・配布先：記念式典での配布及び関係者に郵送



記念式典



設立30周年記念誌